

第3回秋田市河辺地域公共交通研究会議事録

開催の日時 平成20年11月21日(金)午後2時から3時40分まで

開催の場所 河辺地域活動センター

委員の定数 18名

出席委員 9名

議題 (1) 岩見三内線等の路線廃止について
(2) 河辺地域の代替交通について

事務局 開会の言葉

事務局 アドバイザー委員の紹介

会長 挨拶
准教授を紹介

事務局 「岩見三内線等の路線廃止について」の説明

会長 一部の委員が欠席されているが、今日は市からのいろいろな考え方の紹介することなので、このまま進行することとする。
事務局からの説明を補足する点があれば、秋田中央交通株式会社の委員から説明いただきたい。

委員 岩見三内線について、平成19年度の収支状況は、約3千万円の収入に対し、経費が約7千3百万円かかっており、約4千3百万円の赤字である、県と市から約3千3百万円の補助金をいただいても、なお1千万円の赤字を当社で負担していることになる。
中でも、岩見三内から和田駅もしくは御所野までの利用者は少なく、収入も少ない。
何らかの方法で路線バスを利用する方が増えてくれればいいが、今後、利用数の増加はそう簡単にはできないと考えているため、路線の収支の改善の見込みは立たない。
そのため、定員が50人乗りの大型バスではなく、コスト削減のために、マイクロバスやジャンボタクシーなど幾分小さな車両で運行した方がベターと考え、路線廃止の申し出をしたものである。

会長 これまで行政としては、どのような取り組みをしてきたのか。

事務局 市の中心部分で、運行系統や運行本数が多い地域については、路線の再編などを行うことにより、効率的な運行が可能であるが、郊外部については、路線の統廃合が不可能なので、15路線について代替交通の導入を計画してきた。
河辺地域の岩見三内線もその一つであり、この研究会において、代替案を検討していただきたい。

委員 先ほどの委員の説明にあった岩見三内線の中央交通で負担している分1千万円を追加で補助すればそのまま運行が継続できるのか。

委員 赤字分すべてを補填していただければ、運行の継続は可能であるが、実際は、岩見三内線だけへの補填は不可能であり、他の路線も考慮に入れば、それを実施することがいいことなのかどうかは疑問である。

会長 それ以外に、この件について意見等はないか。なければ、次の議題に入る。
(2)の河辺地域の代替交通について説明をしていただきたい。

事務局 (2)の河辺地域の代替交通について説明については、市と共同で代替案を作成した秋田大学の准教授から説明させていただく。

准教授 「河辺地域の代替交通について」について要旨を説明する。
今回は御所野(具体的には御所野交通広場を想定)を起点として岩見三内までのAコース、岩見三内から岩見ダム方面、鶴養方面を運行するBコースを考えた。
Bコースは循環コースも視野に入っている。
なお、コスト面を考慮し、Aコースは毎日運行するが、Bコースは利用実態から

週3回（例えば月・水・金）しか運行しないケースも併せて検討した。
 運行形態案としては大別して3案である。
 第1案は両コースとも定時定路型で運行する案である。その中で、枝番の1としては、両コース直行運行型であり、枝番の2は両コースを岩見三内で分割する分割運行型である。
 実際には、両コースの利用人数が大きく異なっており、直行運行型は同一車両を使用することになるが、分割運行型は各コースの実態にあった車両を設定できるメリットがある。しかし、岩見三内でも乗り換えを要するデメリットがある。
 第2案はコース取りは第1案と同じになるが、予約運行型である。これは、現在路線バスの利用ができない畑地区などについても利用が可能になるが、所要時間が長くなるデメリットがある。
 第3案はAコースは定時定路型、Bコースは予約運行型の組み合わせである。
 料金については、現行どおりの対キロ区間制であるが、初乗りは200円、また、現行運行のバス車両のような両替機が搭載されていない車両が運行することを前提として50円刻みとした。
 そして、収支の基準として、秋田市内で最も低い路線である営業係数が200円を収支の基準にしたらどうかということであり、これを超えるようであれば、運賃改定をする必要があるものとする。
 経費等の計算基礎として、使用車両はマイクロバスまたはジャンボタクシーとし、各案でそれぞれ1～3両配置することとし、Bコース毎日運行する場合には乗務員は3人、Bコース週3回運行の場合には2人とした。
 その結果、Bコースを毎日運行する場合には、市の補助金が一番少なくなるのは、案で12,067千円であり、営業係数は269円となる。
 また、Bコースを週3回運行した場合についても、市の補助金が一番少なくなるのは、案で8,267千円であり、営業係数は230円となる。
 しかし、どの案についても、基準となる営業係数200円には達していないことになる。

- 委員 代替交通の実施方法について、大変わかりやすい説明であった。地区住民が安心して生活できる公共交通となるよう今後検討していきたい。
- 委員 岩見三内と御所野間の所要時間は30分と想定しているのか。また、乗務員は3人でいいと考えているのか。
- 准教授 所要時間の30分はそのとおりである。乗務員については、とりあえず必要数は3人としているが、ダイヤを編成して人数を試算したものではない。
- 委員 了解した。
- 委員 他都市における予約式の実態に関する情報はあるのか。
- 事務局 予約式を導入している他都市の細部は不明なのでここではお話できないが、本市のマイタウン・バス北部線の状況を説明すれば、まとめて予約をできるようにしたこと、小学生は利用することが前提になっているので、予約なしとしていることなどがあって、当初は苦情があったが、徐々に浸透してきていると思う。
- 委員 公共交通に対する住民要望としては、医療機関への通院と買い物するための商店までの足の確保である。この地域で通院したい医療機関とは秋田赤十字病院である。
 赤平経由の運行本数が少なくなってもいいので、運行経路を分割して畑町内回りも検討していただきたい。
 高齢者のことを考えれば、定時定路型がいいと思う。
 利用者が少なくて、あまり経費をかけられないというなら、スクールバスとの混乗を検討していただきたい。
 また、利用者増を図るには、和田駅で電車と接続することが必要条件である。
- 委員 平成18年度の調査で一部の住民へアンケートを実施したようであるが、利用者を対象として再度アンケートが必要ではないのか、路線バスの利用目的調査を含めて検討していただきたい。
 また、先日11月17日に放送していた「クローズアップ現代」の放送内容について、説明いただきたい。
- 委員 放送の中では接続バスがなく、失敗例のように報道されたが、実際は1時間に1本運行しており、接続便の時刻設定や指摘された病院方面の延長については中央交通との話し合いが必要となるものである。

委員 当社の事情を説明すれば、代替交通は御所野までにしていただき、そこから秋田赤十字病院までの間は路線バスに乗り換えていただきたい。
現在利用しているお客を手放すことは経営の悪化につながる問題である。

委員 利用客の減少によって、路線バスの経営は成り立たなくなっているため、路線の廃止が相次ぎ、代替交通が必要と判断した市町村については、運行方式を決定する必要があることから、地元住民や利用者などとの会議を開催するようになってきている。
その基本的な考え方としては、現在路線バスを使っている人、使っていない人とも、まずは、この地域で路線バスが必要なのか否か、また、減便など使い勝手が悪くなくても、どの程度までなら許容範囲なのかを検討する必要があるのではないのか。
また、現在バスに乗っている人の意向を調査することも必要ではないだろうか。

会長 この場で結論を出す必要はないと思うが、今後の対処方法について、委員の皆様はどう考えるのか。

委員 乗継拠点となる可能性があるという説明のあった御所野交通広場は横風が強く、冬期間は立ってられないほどだ。施設の改善が必要である。

委員 過去に秋田県主催の会議の席上での話であるが、路線バスとJRとの接続は非常に困難であると聞いたが、実現は可能か。

事務局 現在の岩見三内線は秋田市中心部から直通運転になっており、仁井田地区などの国道13号で交通渋滞が発生すれば必然的に遅れることになり、定時運行が確保できなくなっているのが現状である、
しかし、起点が御所野になれば、ほぼ定時運行できると思うので、電車と接続することは可能である。

委員 電話予約が大変と思うので、定時定路型で運行するのがいいと思う。

委員 この会議では、どの程度まで決定するつもりか。

会長 今日は18人の委員のうち、岩見三内地区の委員6人のうち5人が欠席しているので、その委員の方々の意向も聞く必要がある。

委員 住民ニーズをつかむ方が先決ではないのか。

事務局 今後の日程であるが、年明け早々に第4回の研究会を開催し、代替交通の運行方向の道筋をつけていただきたい。

会長 岩見三内地区などの欠席委員へは、事務局から資料を送付していただき、それぞれの立場で代替交通を検討していただくことになる。

委員 公共交通の廃止や代替案について、私は賛成も反対もできないし、責任もとりたくない。地元へ帰れば、近所にバス利用者があり、物事を決定したのはあなたかと言われるためである。

委員 次回の会議で、結論を出すのか。

事務局 次回には、委員の皆様話を聞き、案に取り入れることができるものは取り入れることになるので、今後最低2回開催しないと決定できない。

委員 次回まではあまり時間がないので、全部を決定することは困難と思うが、一番重要である「運行車両をマイクロバスにするのかジャンボタクシーにするのか」と「運行形態は予約運行型か定時定路型か」の2点は早期に決定する必要があるのではと考える。

会長 何か他にあるか。なければこれで今回は終了とする。

- 議事終了 -

事務局 次回は1月に行えるよう準備する。